

法政大学国際高等学校

持続可能な社会の実現を担う グローバル・リーダー育成プログラム（GLP）の開発

【構想の概要】

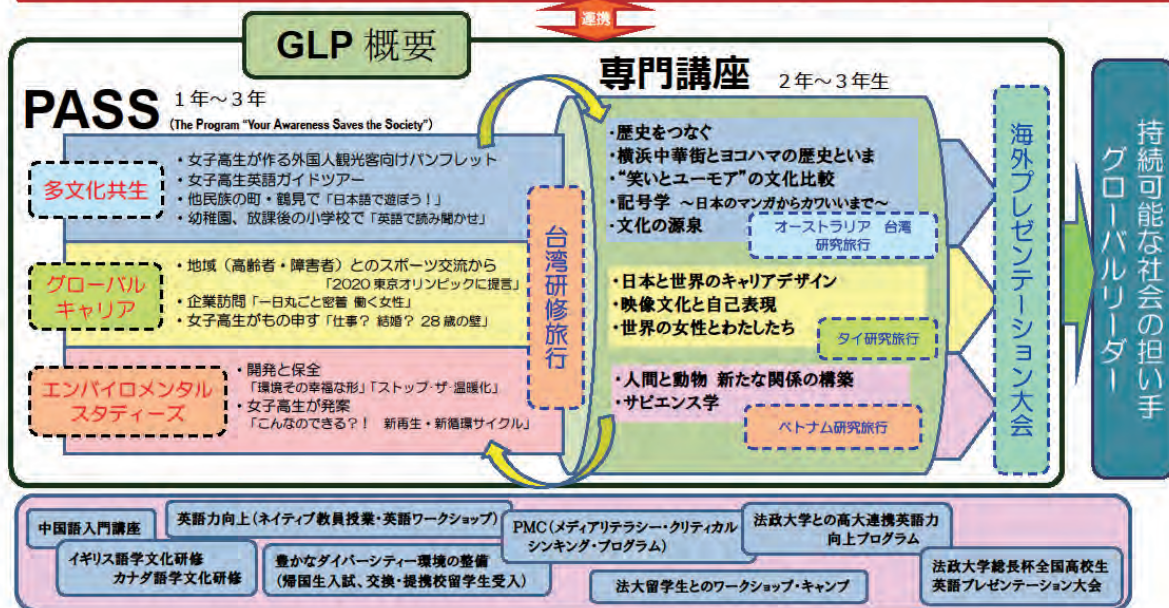
持続可能な社会の実現に向けて解決すべき諸問題を3領域「多文化共生」・「グローバルキャリア」・「エンバイロメンタル・スタディーズ」に大別し、各領域を、実社会での体験的アプローチ：The Program “Your Awareness Saves the Society” (PASS) と、専門家の話やワークショップに参加する学術的アプローチ：「専門講座」の二つから学ぶ取組みを行う。前者は、主に企業やNPO団体および行政の取組み等との連携により、後者は、主に法政大学をはじめとする国内外の大学等との連携により、実現させる。これら二つのアプローチを通じて、社会への高い参画意識や行動力、ならびに、論理的思考に基づく問題抽出力やその解決能力の育成を図り、次世代のグローバルリーダーに必要な資質を体得させる体系的なプログラムを開発する。

持続可能な社会の実現を担うグローバル・リーダー育成プログラム（GLP）

法政大学女子高等学校

持続可能な社会の構築のために、世界が抱える課題を「多文化共生」「グローバルキャリア」「エンバイロメンタル・スタディーズ」の3領域に分け、①社会に参与するプログラム「PASS」、②学術的探究プログラムである「専門講座」の2つのアプローチから探究し、課題解決方法を提言する。

提携・連携： 法政大学 日本台湾教育センター 淡江大学 キリン株式会社環境推進部(予定) MFC(マイ・フューチャー・キャンパス) NPO 法人 ABC ジャパン 横浜市国際交流協会 全国高校生エコ・アクション・プロジェクト ホーチミン市人文社会科学大学(予定) など



【本校の教育課程】 ※18年度より国際高校と校名変更。男女共学、新カリキュラム（単位制）をスタートさせた。

1年目	世界史A(2)	化学基礎(2)	コミュ英(4)	2, 3年目	国際理解I、II	体育(2)×2
HR(1)	数学I(3)	体育(2)	英語表現(2)	HR(1)×2	卒業論文(各2)	家庭基礎(2)
総合的学習(1)	数学A(2)	音楽I	社会と情報(2)	総合的学習(1)×2	生物基礎	保健(2)
国語総合(4)	物理基礎(2)	美術I(各2)	リテラシー(1)	現代社会(2)	地学基礎(各2)	選択科目

PASSの概要

「PASS」は、本校の全生徒（18年度1年次生は297名、2年次生、3年次生はともに265名）が3年間取り組んでいるSGHプログラムの核の一つである。1、2年次においては、生徒（3～5名程度のグループ）が自らの手で社会課題を見出して、その解決に向けたプランを立案し、具体的なアクションに移行させていく。3年次は個人活動となり、各自が2年間の取り組みについてまとめたポスターを作成して、社会に向けた提言をプレゼンテーションしていく。

1、2年次のそれぞれでは、「総合的な学習の時間」の年間15時間程度を、3年次ではおよそ8～10時間程度を生徒の活動のために確保している。ただし、課外活動を重視したプログラムであるため、生徒たちは、放課後や土日、夏季休暇などの時間にも様々な活動をしている。

外部に向けた発表の場としては、「SGH中間発表会」（1、2年生の生徒全員が発表するプレゼン大会で高い評価を得た代表チームによる発表の場。1月に実施）と、「PASS成果報告会」（3年生全員が発表するポスター大会において高い評価を得た生徒が、個人発表を行う。9月に実施。）の二つを毎年実施している。運営指導委員の先生方から様々なアドバイスをいただいているほか、生徒保護者、定期的に交流している他のSGH校（横浜国際、公文国際）の生徒、来場された他校の先生方なども積極的に発言をされていて、毎回生き生きとした〈学び〉が展開している。

課題研究の発表会は、学校を外部に開くことで、教育活動のフィードバックを得られる貴重な場だと言える。と同時に、生徒の〈学び〉の定着、深化において大きな役割を果たしている点も見逃すべきではない。1年次生を対象にGoogleフォームを使用したアンケートを実施したが、「PASSの取り組みテーマの理解が十分深まった」、「深まった」という回答と、発表会への選出経験との間には強い相関があった。また、外部向けの場で発表したいという生徒の積極性自体、年々高まっている様子が窺える。

SGH指定以降、課題研究の「プレゼン」という実践は、生徒たちの学校生活の中にしっかりと根を下ろしたことに間違いはない。そしてそれは、各授

業におけるアクティブ・ラーニング的な実践とも年々結びつきを深めていると言える。



※中間発表会の様子。

専門講座の概要

「専門講座」は、本校のカリキュラムの中にある「国際理解Ⅰ」と「Ⅱ」に設置されている選択授業である（全10講座を設定。希望による選択）。教科科目の枠にとらわれず、教員が自分の専門性を活かしながらテーマを設定。大学のゼミのスタイルを取り入れ、ディスカッション、発表、レポート作成などに取り組んでいる。

幾つかの講座においては海外研修を実施。台湾の淡江大学にある「村上春樹研究センター」、タイのバンコクにあるYMCAパヤオセンター、ベトナムのホーチミンにあるJICAなど、様々な海外大学や機関と連携をして、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを現地で行っている。そうした実践に取り組んだ生徒の成果は、上記した外部向け発表の場で生徒自身が報告しているほか、『生徒論文集』にもレポートを掲載している。



※タイでのフィールドワーク。この時の様子は『高校生新聞』（2017年10月10日）でも紹介された。